日本精神保健社会学会

発行 2021年2月15日

THE JAPAN ASSOCIATION OF MENTAL HEALTH SOCIOLOGY

＜日本学術会議協力学術研究団体 No.1001＞

ニュースレター第71号

発行人:宗像恒次　編集人:山本美奈子

事務局: 東京都豊島区西池袋2-39-8

ローズベイ池袋ビル3階 東京メンタルヘルス内

日本精神保健社会学会事務局: 担当/村上

TEL : 03-3986-3220/ FAX 03-3986-3240

E-mail:murakami@t-mental.co.jp

会員の皆様、本年もよろしくお願いいたします。今回のニュースレターは、第26回の学術大会のご報告と理事の現場からお届けします。第26回の学術大会は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大予防から、オンラインでの開催となりました。

第26回 日本精神保健社会学会学術大会を終えて

○　大会実行委員長　新行内 勝善

（NPO東京メンタルヘルス・スクエア　カウンセリングセンター長）

おかげ様で本学会はじめてのオンラインでの学術大会を無事に終えることができました。総勢約40名の方々にご参加いただきました。新型コロナの渦中でのはじめてのオンラインの試みであり、全てがスムーズにとは言いきれませんでしたが、大きなトラブルなく、参加した方々にも概ね満足いただけたのではないかと感じております。(オンラインでしたので大会参加アンケートもオンラインで集めることができればさらに良かったのですが、次回以降の課題としたいと思います。)

基調講演では、宗像恒次学会会長（筑波大学名誉教授）より、今大会のテーマ「メンタルヘルスにおける乗り越え力を高める危機状況ー個人の危機と社会の危機ー」についての講演がありました。個人の危機と社会の危機について、また危機ではネガティブなストレス反応が予期されるが、その危機においては効果的なストレス対処パターンに変化することで乗り越え力を高めることができるといった内容がありました。特に個人の危機においては、乗り越えるために効果的な手段であるSATの光療法等について詳しく教えていただきました。

シンポジストの新行内勝善（NPO 東京メンタルヘルス・スクエア）からは「元々あった問題がコロナの中で表面化している、その中で自殺や相談件数も増えている。けれども、さまざまなSNS相談体制を整えることで、チャットでも変わらぬ効果を得ている」といった発表でした。同じくシンポジストの中嶋一恵(SAT情動認知行動療法研究所)からは、「SATの高い技術力を背景とし、オンラインの面談のなかでさまざまな問題が起きても、それに対してひとつひとつ解決していった」というとても興味深い発表でした。いずれも今まさにあるコロナ禍において、対面相談が難しいという相談における危機的な状況をくぐり抜けてきているという内容の発表でした。問題に対して解決策を考えて、変わらぬ効果を得てきているといった点が、今後のオンラインでのメンタルヘルス支援への期待感をさらに高める発表となりました。

今回は、一般演題は抄録集の発送に変えて発表とした形となりましたが、今年も多種多様なメンタルヘルスに関わるテーマでの発表が寄せられました。一部を抜粋しご紹介すると、「描画に関してのメンタルケア効果」「当事者活動における共感生成」「職業準備性を高める支援（オンラインでの取り組み)」「自閉症スペクトラムに対するあん摩療法の効果」「オンライン就労支援」「ネット依存と ASD・身体症状の関連」「自己効力感に基づいた心理教育指導」「認知症高齢者への看護ケア」「地域カフェ活動の実践」等々、さまざまな意欲的な研究がありました。

閉会の挨拶にて谷口清弥理事（四條畷学園大学）が端的にまとめてくださいましたが、特に「オンラインを使ったメンタルヘルスの支援」に大きな焦点が当てられることとなりました。オンラインでの開催にあたり、ご尽力いただきましたスタッフの方々にはあらためて心よりの御礼を申し上げます。

最後に、シンポジウム司会を務めた武藤清栄学会副会長（東京メンタルヘルス）よりありましたが、本学会事務局長の滝澤理事のことが大変気になっております。一日も早く健康が回復することを心より祈念しております。

理事の現場から―SAT 療法によるカウンセリング支援を通して―

○　中嶋 一恵氏（筑波大学発ベンチャーSDS SAT 療法センター）

私が勤務する筑波大学発ベンチャー株式会社 SDS（SAT Delivery System）は、筑波大学名誉教授 宗像恒次 博士によって開発され、英米からの受賞で国際的にも評価されている SAT 法を多くの方々に普及させることを目的として設立されたものです。多数のセミナーが企画･開催され､また SAT 療法センターでは SAT 法を用いた心理治療を行っています。

SAT（Structured Association Technique）とは、構造化された方法（Structured）を使って、イメージ、ひらめき、連想、直感（Association）という右脳活動を上手に促し、問題解決を図る技法（Technique）です。特徴は、最初に「考え方」を変えるのではなく、まず「感じ方」を変える情動認知行動療法であるということです。

SAT 療法センターでのカウンセリングを希望される方は､孤独､生きがいのなさ､不眠、うつ、パニック、強迫行為、対人恐怖、ADH 症、自閉スペクトラム症、妄想、不登校、引きこもり、そううつ、がん、過食・拒食、自傷行為、親子関係、夫婦関係、職場関係など多岐にわたります。SAT 療法では、自己成長する過程の中で自身のなかにある矛盾や思考の癖に気づくことができ、自身の課題やストレスを乗り越えていく力を身につけていくことが可能です。

現在、新型コロナの感染拡大による外出制限が求められており、公共交通機関を利用しての移動に不安を感じている方も多く､カウンセリングを受けたくても SAT 療法センターでの対面のカウンセリングを受けることが難しい状況が生じているため､2020 年 4 月よりオンライン（Zoom や Skype 使用）によるカウンセリングも本格的に導入しました。これは、新型コロナ感染に対する取り組みの長期化､「新しい生活様式」への移行の必要性のひとつだと思っています。オンラインでのカウンセリングの導入により、今まで SAT 療法センターに来ることができずカウンセリングを受けることを諦めていた方にも、カウンセリングの機会が得られる結果となりました。新型コロナの感染者数が増加するとオンラインでのカウンセリング希望者が増加するという傾向はありますが、対面でのカウンセリングを希望される方も数多くいらっしゃいますので、感染対策を厳重に行ったうえで実施し、どのような方法で実施したとしても同等の効果が得られ、その効果が持続するように事前準備や方法の工夫は継続していきたいと思っています。

日々のカウンセリングを通して感じることは、新型コロナウイルスという未曽有な危機

状況が続く驚異のなかで、自分自身の課題に立ち向かうクライアントの皆様の前向きな気持ちの強さです。その気持ちを支えさせていただきながら、クライアントの皆様との出会いに感謝し、共に学び、成長し続ける気持ちを忘れずにいたいと思っています。

―編集後記―

○　山本 美奈子（山形大学）

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が急激に広がり、長期化しています。本学会の会員の皆様のなかには医療や福祉の仕事に従事されている方が多くおられることと思います。感染リスクが高いなかで従事されておられることに心より敬意を表します。また新型コロナウイルス感染症が一刻も早く終息し、全ての皆様が安心して笑顔で暮らせる日々が戻ってくる事をお祈り申し上げます。

この間、私達の日々の生活は一変しました。 以前のように、気軽に出かけて人と会って話したり食事をする機会が制限され、スポーツや文化に触れる機会も少なく、将来への不安やストレスを抱えている人が多いと予想されます。歴史的に見て，伝染病やパンデミックは、偏見や差別を誘発しがちです。かつてはペストやエボラ熱、SARS、現在では新型コロナウイルス感染症です。感染した人や医療従事者に対する偏見や嫌がらせなどいじめを報道するニュースが増えています。偏見や差別は、公衆衛生上の脅威です。これらの偏見は、対象となる人々の心身の健康や生活にダメージを与えるばかりではなく、現在および将来の伝染病の封じ込めを困難にします。新型コロナウイルス感染症が危ぶまれる早い段階で、日本赤十字社が発行した「新型コロナウイルスの３つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切ろう～」は、問題の的を射たもので幅広い年代層に読めるようにイラスト入りの解説がわかりやすく、訴えるものがあります。
た http://www.jrc.or.jp/activity/saigai/news/pdf/211841aef10ec4c3614a0f659d2f1e2037c5268c.pdf。ぜひ、お一読頂ければと存じます。

私達は、こうした社会の課題に対しどのように考え取り組んでいけばよいのか、知恵を出し合っていくことが本学会の重要な使命であると考えます。理事、会員の皆様の声を今後もニュースレターや学会ホームページにて取り上げていきたいと思います。ぜひ、本学会事務局宛てに皆様の声をお寄せくださいますようお願い致します。

会費納入のお願い

本学会の活動は、会員の皆様の会費によって支えらえています。2019年度の年会費は、2019年10月1日から2020年9月30日の期間です。また、2020年度の年会費は、2020年10月1日から2021年9月30日の期間です。2019年度の年会費納入がまだの方は、速やかに納入くださいますようお願いします。会費、振込み先は以下の通りです。

会費　通常会員　5,000円　　学生会員　3,000円

振込み先　ゆうちょ銀行　加入者名　日本精神保健社会学会　00170-6－613036

なお、前年度の未納分を併せてお振り込み頂く場合、本年度会費に未納会費を加えた金額を記入の上、通信欄に「〇〇年度分と2年分」とご記入下さい。その他ご不明な点がございましたら、学会事務局にお問い合わせ下さい。

機関誌「メンタルヘルスの社会学 Vol.27」の原稿募集

年報編集委員会では、会員の皆様からの原著論文を募集しております。また、総説、研究報告、実践報告、短報、研究ノート、資料等もお待ちしております。論文の書式は年報の執筆要項をご覧ください。なお、タイトル、抄録の英文についてはネイティブチェック(専門校閲)を必ず受けるようにしてください。

●原稿締切：2021年7月12日（月）厳守

●投稿規定：詳細は、本学会ホームページ

日本精神保健社会学会（jamhs.org）

投稿規定をご確認ください。

●送付方法および送付先

＊郵送のみの受付となります。

東京都豊島区西池袋2-39-8　ローズベイ池袋ビル3階 東京メンタルヘルス内

日本精神保健社会学会事務局：担当/村上宛

日本精神保健社会学会入会のご案内

1. 主旨

今日ほど、社会諸科学がその社会的責任を果たすことを必要とされている時代はないでしょう。とりわけメンタルヘルスの問題は、慢性化する内戦や犯罪に始まり、薬物依存、弱者虐待、閉じこもり、抑うつ、仕事中毒、セックス中毒など、国も内外に山積しています。

これまで産業社会を支えてきた近代科学技術は、感情を極力排し、事柄のみに基づいて判断し、評価する秩序を作り、豊かな物の生産と消費の基盤を発展させてきました。しかし、そうした感情を排する秩序を徹底して作れば作るほど、人と人との共感する心は失われるのです。そして、「自分の持つ本当の感情は何か」を見失い、無気力に閉じこもったり、あるいは食、セックス、地位などの快感を求めることに逃避したり、弱い立場にある者を差別し、様々なかたちの暴力を加えるのです。ところが、これらの問題は、これまでの各ローカル社会における従来の秩序のあり方では、解決できなくなってきています。

そこで私達は、自分や相手の本当の感情を見いだし、共感しあうメンタルヘルスを求めています。そして、それを個人にとどまらず、集団、社会に、さらには文化として表現する具体的かつ実践的な対応策を導き出すためには、精神保健社会学の理論と方法論とが必要であります。

学会長には情動認知行動療法研究所の宗像恒次氏が選出され、理事達の顔ぶれも社会学、心理学、保健学、社会福祉学、精神医学、公衆衛生学と多岐に渡っています。

様々な分野の方々が、ご入会くださるよう期待しています。

2. 指針

①メンタルヘルスの背景となる社会・文化的構造と変動を、社会学的な視点から研究をすすめて、世論の形成に寄与し、社会的貢献を果たす。

②大会やイベントにワークショップ形式を導入し、学会の運営に会員が積極的に参画する。

③国際的にも仲間づくりをすすめていく。

④建前を排し、本音で語り合える仲間や研究グループを形成する。

⑤社会学を専攻する学生達に、夢を与えるような仕事をする。

⑥大会やイベントごとに論文や本などをまとめて出版し、成果を社会に還元して行く。

3. 入会申し込み方法

送付先:〒320-8551　栃木県宇都宮市豊郷台1－1　帝京大学宇都宮キャンパス　滝澤武研究室内

日本精神保健社会学会事務局　　TEL & FAX:028－627－7188、E-mail:info@jamhs.org

入会金:5,000円

年会費:通常会員5,000円、学生会員3,000円、賛助会員一口10,000円（一口以上)、機関会員 20,000円

送金先:郵便振替 00170－6－613036　　加入者名 日本精神保健社会学会

※　E-mail、FAX、郵送にてお申込ください。承認後、振込み手続き等をご送付します。

日本精神保健社会学会入会申込書

フリガナ 氏　名		生年月日	西暦　　年　　月　　日　　歳 （ 男 ・ 女 ）
会員種類	通常会員・学生会員・賛助会員・機関会員　を希望する	連絡先	所属・自宅　を希望する
所属名 及び住所	〒 TEL:　　FAX:　　E-mail:		
自宅住所	〒 TEL:　　FAX:　　E-mail:		
所 属 系 （○印）	社会学･文化人類学･経済学･哲学･心理学･社会福祉学･教育学･看護学・医学･保健学･栄養学･体育学･地理学 行政学･政治学･その他（　　）		
関心領域			